

寺院



県指定史跡 九十九坊廃寺跡
(昭和10年12月24日指定)



九十九坊廃寺跡Ⅴ
(平成25年度調査)

現在、九十九坊廃寺跡は塔を含む一部が県の指定史跡となっているほか、その周辺には寺院跡関連の遺跡が残っています。写真左は塔の心柱の礎石で、周辺にもいくつか礎石が見られます。写真右は、中門推定地で、掘立柱建物跡が検出されています。

墨書土器

墨書土器は、墨で土器に文字や符号を記入したもので、組織や官職、地名、人名、目的、用途などが記されているものがあります。官衙や寺院関係の遺跡から出土することが多く、古代の貴重な文字資料です。



南子安金井崎遺跡出土の墨書土器

平成26年度 君津市内出土遺物公開展

古代のすえ郡 ～まぼろしの郡衙～

アピタ君津店 8月13日(水)～8月17日(日)
君津市立中央図書館 8月19日(火)～8月28日(木)

編集・発行 君津市教育委員会文化振興課
君津市久保2丁目13番1号

平成26年8月8日 発行

平成26年度 君津市内出土遺物公開展

古代のすえ郡

～まぼろしの郡衙～



南子安金井崎遺跡及び九十九坊廃寺跡出土の瓦

古代の小糸川一帯は、^{かずさのくに}上総国「^{すえぐん}周淮郡」と言い、下流域には、古代の役所である郡衙や寺院があったと考えられています。寺院は内蓑輪地区に^{ぐんが}九十九坊廃寺跡があり、塔や講堂の跡が発見されています。郡衙は地名から「郡」地区が候補地とされていますが、いまだ確定できる建物跡は見つかっていません。「周淮郡」の郡衙はどこにあったのでしょうか。

郡衙

奈良・平安時代の律令制度の下では、地方の行政区画を国一郡一里（郷）に分け、国には「国府」、郡には「郡衙」という役所が設置されました。

郡衙の建物には、政務を行う「郡庁」、当時の税である稲を保管する「正倉」（倉庫）、宿泊用の「館」、調理を行う「厨家」の建物で構成されることが文献史料から分かっています。郡衙遺跡の調査例を見ると、いずれの建物跡も掘立柱建物で、当時の一般の住居であった竪穴住居とは異なります。市内では、これまでに掘立柱建物跡がいくつかの遺跡で見つかっていますが、郡衙を構成するような建物群ではありません。

周淮郡

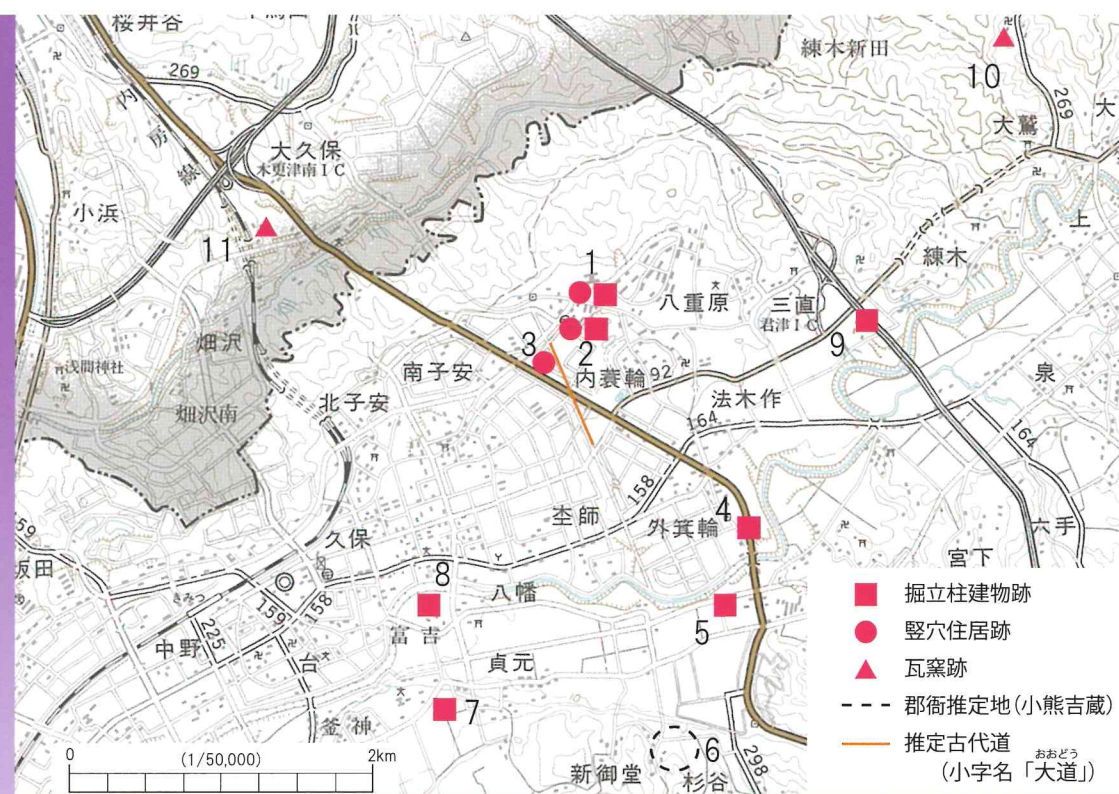
「周淮郡」の郡衙は、昭和初期に郷土史家の小熊吉蔵が、地元の古地図に「郡所跡」とあったことから、現在の郡地区を「周淮郡衙」に推定しました。

平成2～4年度に土地改良事業に伴い、郡衙推定地である郡遺跡の発掘調査が実施されました。その結果、複数の掘立柱建物跡は検出されたものの、郡衙より古い古墳時代後期の建物跡と判明し、豪族の居館跡と考えられています。

郡衙は郡寺と数百mの距離に位置する事例があります。もし、九十九坊廃寺跡を当時の郡寺と想定するならば、郡衙も小糸川右岸の南子安や内蓑輪周辺の台地上にあったという可能性も十分あるでしょう。



郡遺跡の掘立柱建物跡



小糸川下流域の奈良・平安時代の遺跡

1. 九十九坊廃寺跡
2. 南子安金井崎遺跡
3. 南子安遺跡
4. 外蓑輪遺跡
5. 常代遺跡
6. 郡遺跡
7. 上湯江遺跡 No.17
8. 富吉遺跡 No.2
9. 三直中郷遺跡中郷地区
10. 大鷲瓦窯
11. 大久保瓦窯（木更津市）

掘立柱建物跡

地面に穴を掘りくぼめて、そのまま柱を立てた建物を掘立柱建物と言います。集落跡でも見つかることもありますが、柱穴は小型で円形や不整形のものが多く、建物の方向は一定ではありません。郡衙・寺院遺跡では、大型で方形の柱穴を主体とし、建物配置に規則性が認められます。



常代遺跡の掘立柱建物跡